

- ◆ 近畿財務局では、新たなビジネスチャンスを探り多様な人材が集まる知的創造拠点「ナレッジキャピタル」をプラットフォームに、当局が有する人脈を活かして、創業や観光にノウハウのある経営者等を招聘し、民間事業者と金融機関・地方公共団体職員の交流の場を提供する取組を継続的に実施しているところ。
- ◆ 平成28年度においては、地方創生のテーマとして関心の高い観光振興を中心に、知見・ノウハウのある講師を当局が招聘し、合計5回のセミナーを開催。

1. 成果事例の概要等

○近畿財務局では、地方創生支援に係る取組の一環として、大阪市に所在する知的創造拠点「ナレッジキャピタル」と連携し地方創生セミナーを開催。ナレッジキャピタルのサロン会員(事業者、起業・創業を目指す者等)の他、地方公共団体や金融機関職員を対象としたセミナーを開催するとともに、参加者同士の交流の場を提供する取組を継続的に実施している。

※ ナレッジキャピタルとは、新たなビジネスチャンスを探り企業人・研究者・クリエイターなど多様な人材が交流し、それぞれの知を結び合わせて新しい価値を生み出す世界唯一ともいえる“知的創造拠点”
 KNOWLEDGE CAPITAL ナレッジキャピタル
 (ナレッジサロン会員数2,000名)

平成27年度には、起業・創業をテーマに講師を招聘し2回のイベントを実施。28年度においては、地方創生のテーマとして関心の高い「観光振興」をテーマに、合計5回(第3回～第7回)のセミナーを実施している。また、セミナーの開催にあたっては、講演会後に交流会(名刺交換会)を開催し、民間事業者と金融機関・地方公共団体職員の交流の場を提供。

2. これまでの取組の成果等

講師・講演会概要

第3回



多田 稔子 氏(田辺市熊野ツーリズムビューロー会長)
 「世界に開かれた持続可能な観光地を目指して」
 ・日本文化のブランディングを行い海外に発信する手法・ノウハウや、団体旅行から個人旅行への転換等今後のインバウンドの方向性について講演。(参加者130名)

第4回



高橋 一夫 氏(近畿大学 経営学部教授)
 「広辞苑にない観光の創り方」
 ・地域にあるものを全てを観光資源として活用するまちづくり＝観光まちづくりを自立的に継続していくためには、地域住民賛同の元、観光を事業化し経済的価値を生み出すことが必要である旨、自身の経験と各地の事例を交えて講演。(参加者113名)

第5回



谷口 紀泰 氏(エクスペディアホールディングス(株) 京都・滋賀・中四国地区本部長)
 「インバウンドを活用した地方創生について」
 ・地方創生におけるインバウンドの効果的な活用に係る海外OTA(Online Travel Agency)の受皿拡大やデジタルマーケティングの実施について講演。(参加者84名)

第6回



高橋 一夫 氏(近畿大学 経営学部教授)
 「ポスト観光まちづくり」
 ・日本版DMOの育成について、欧米版DMOの事例をふまえて解説。また、ツーリズム・クラスターの手法を用いた地域への経済効果の波及についても、成功事例を交えて講演。(参加者73名)

第7回



マルコ ロンバルディ 氏(在大阪イタリア総領事)
 「関西のインバウンドを考える」
 ・イタリア人から見た関西の魅力を解説したうえで、関西全体を一つのパッケージとして更なるPRを行うべきと提案。また、講演参加者らから質問や意見を募り、回答するという対話形式での講演を展開。(参加者82名)

3. 今後の課題と近畿財務局の対応

○ナレッジキャピタルとの連携を継続し、起業家や金融機関、地方公共団体の要望に沿った講演会を引き続き実施していく。また、アンケートや交流会にて把握できた地方創生に関するニーズや要望を、今後の地方創生支援に係る取組に活かしていく。